

平成 29 年度 第 2 回 尼崎 21 世紀の森づくり協議会 議事録

日時 平成 30 年 2 月 28 日 (水) 09 時 45 分～11 時 30 分

場所 尼崎の森中央緑地パークセンター会議室

■会長挨拶

2 月 14 日に東京で公園の運営に関するフォーラムが企画され、それに私も参加した。コンサルタントや行政、NPOの方などが多数参加しており、これから皆が注目していくテーマであると感じた。

また、3 月 18 日に万博記念公園の太陽の塔がオープンする。元は財務省が独立行政法人で運営していたが、それが大阪府へ移管され、今度は吉本興業が管理を行う。このようなことが公園の運営で動いている。太陽の塔を整備するためのふるさと納税を設けるなど、様々な取組が行われている。

3 月 21 日には、有馬富士公園で新宮晋氏と人間国宝で能楽師の大倉源次郎氏が対談するイベントがある。さらに淡路島公園では、民間企業であるパソナグループが「ニジゲンノモリ」というテーマパークを展開している。

これらの例のように、昨年の 4 月以降に都市公園法が改正されてから様々な動きが出てきている。東京都でも国家戦略特区制度などで苦戦しているようである。尼崎 21 世紀の森づくりも、これから何を目指して取り組んでいくか議論しなければならない。尼崎 21 世紀の森づくりの最初の頃は、産、官、学、地域が集まって議論しながら進めていることが売りであった。ところが、その次の売りはまだ見えてきていない。森づくりは古民家や遊具などが設置され形として出来てきたが、森づくり協議会で何を目玉に据えて皆で取り組んでいくかということを持っておく必要がある。

産、官、学、地域で始まったこの動きを、我々はどのように上手くさらに伸ばしていくかという時期にきた。今後 1 年ぐらいをかけて基礎をしっかりと作っていく必要があると考えている。今日はその前向きな議論のスタートとして、皆さんのアイデアを更に詰め込んで、この協議会での森づくりが更に進歩するようによろしく願いたい。

■議事 1. 平成 30 年度尼崎 21 世紀の森づくりの取組について

○資料説明 (事務局)

資料 1 平成 30 年度尼崎 21 世紀の森づくりの取組、参考資料 1 第 1 回協議会の委員意見と今後の取組等について、参考資料 2 コミュニティサイクル社会実験の結果、参考資料 3 平成 29 年度の主な取組と公園利用者の情報をもとに、事務局より説明した。

○意見交換

委員 : 県政 150 周年記念事業では様々な事業を展開している。尼崎 21 世紀の森も、例えば植樹祭など森づくりに関する事業を行うことを検討してはどうか。現在第 3 工区を工事しているところであるが、我々が期待する程進んでいないようにみえる。これを促進する意味も含めて、第 3 工区で植樹祭を行い、植樹を進めていくことができれば良い。

事務局 : 先ほどご説明があった通り、今年度に第 2 工区と言っている都市公園区域が完成する。この区域については植栽もほぼ終了している。今後第 3 工区の港湾緑地の方に整備を進めていくが、事業費の都合もあり遅れている状況である。中央緑地の植栽に関する取組として、エリア設定の森づくりで区画を企業や団体にお貸しして植栽して頂くものや、環境学習などで植栽して頂いているものがある。現在、エリア設定の森づくりにいくら

か応募があるが、待って頂いている状態である。このように基盤整備や植栽整備が遅れている状況であるため、委員のおっしゃる意見についてはこの整備状況も踏まえて検討させて頂きたい。なかなか厳しい状況であるということをご理解頂ければと思う。

委員 : 平成 29 年度の主な取組を見ると、「阪神南ふれあいスポーツフェスタ 2017」の参加者が 8,000 人で他に比べて際立って多いように見える。平成 30 年度の予定を見ると「スポーツ大会の開催」とあるが、「スポーツフェスタ」は開催しないということか。

事務局 : 来年度も開催を予定しているが、事業の規模や内容については今後詰めていきたいと考えている。できる限り集客に繋がる内容にしたいと考えている。

委員 : 様々な事業がたくさん行われており、様々な方が関わって行われていることがよく分かった。行政が動くのではなく、行政以外の人が行う体制にもっていくことができればと思う。会長がおっしゃっていた「公園フォーラム」では公園を使いこなすということで市民活動や企業活動が紹介されたが、仕掛けとしては尼崎 21 世紀の森が持っている仕掛けの方がすごいと思う。何が違うかという、取組んでいるのが行政ではないということである。行政とは関係のない企業などが自分でやりたくてやっており、それに上手く乗る制度があってやっているのだと思う。市民が好きなことをやって盛り上がっているという感じである。このような例と盛り上がりが違うのは、中心である人物が行政ではなく、自分も好きでやっているという人であるという所である。

お金の使い方がこれまでの行政のやり方でなく、目的を一緒にしている団体が自由にお金を使うことができるようになれば生き生きとすると思う。事業数を減らしてでもそのようにすれば、関わる人が更に増えるのではないか。そういった仕掛けづくりを行うことが県の大きな役割であると思う。

委員 : この阪神南地域では個々の団体が良い意味で閉鎖的であると感じる。仲間意識や帰属意識がとても強いため、何かイベントを行う時も顔見知りであるが、なかなか一つになることができないという特性があると思う。外からの小さなコミュニティをあえて一つにまとめなくても、様々なことを好きにやっている人がたくさんいるという状態でも良いと思う。小さなコミュニティ、自分達のグループでやりたいと思っている団体も入れることができるプログラムがあると良い。

質問だが、尼崎運河 10 周年記念事業や県政 150 周年事業などは継続して今後も取り組まれるのか。もう一つは、今日もバスが無くて困ったので、コミュニティサイクルがもっと稼動すればと思う。これも県政 150 周年事業に位置づけられており来年も行うということであるが、昨年実施したことがどのように活かされて、継続的に行うという調査と分析をしているのかどうかお聞きしたい。

事務局 : 委員がおっしゃった、行政だけでなく民間も様々な動きをできるようにするという件について、中央緑地でも行政でできることや発想が限られてくるため、月に 1 回「森の会議」を開催しており、この資料に記載していないイベントも徐々に数が増え、内容も広がり集まってくるメンバーも増えつつある状況である。このため、少しずつ民間の方も交えたイベントを実施したり、民間によるこの場所を活用した大規模なイベントなど

も誘致しながら、集客に繋がるように進めていくことができると考えている。「森の会議」が企画したもので子どもの自由研究のイベントを昨年度から実施している。この資料にすべて記載できていないが、凧揚げなどのイベントも実施しており、今後でもできる限り充実させていきたいと考えている。また県政 150 周年記念事業の継続については、「運河サミット」は現在実行委員会を立ち上げ、企画や内容について検討、議論して頂いているところである。そのなかでレガシーをどうするのかという意見も出ており、何を残していくか委員会の中でも議論しながら、身のあるものや次の世代に繋がるようなものを生み出すことができると考えている。その他の事業に関しても、継続するものもあるかもしれないが言い切れない部分もある。

コミュニティサイクルについては、昨年から協議が続いている「自転車まちづくり」という自転車を使って街を活性化させるという取組を今年度と来年度に図っている。今年度は主に尼崎の南部地域の中央緑地を含める所で社会実験を実施し、結果は先ほどの通りである。平成 30 年度は、尼崎の南北交通の補完ということも目的に、北側の阪神線と JR 線にも設置することを考えているところである。尼崎市と協働実施ということで市と調整しているところである。一方で、民間の阪神電鉄のグループ会社が昨年末から西宮市で数は少ないがシェアサイクルを始めており、今年の 1 月末から尼崎でも設置して本格的に実施されている。こちらは有料であるが、これらの動向も見ながらヒアリングを行ない、今後検討していきたいと考えている。

委員 : 補足であるが、今の中央緑地は利用者が約 10 万人ぐらいであるが、その目標値を年間で 30 万人に増やして行きたいという思いが県にある。今のまま行政や指定管理者が主体で行っていくのでは目標値の達成は難しいと思う。そういう意味ではやり方を検討する必要があると考えている。少しずつそこが変わってくるのではないかと判断している。

委員 : この公園が「森の会議」などを中心に少しずつ色々な方が関わる仕掛けを持っていることや取り組んでいることは理解しているが、すぐにではなく大きな方向性として、お金の使い方を検討する必要があると思う。税金を慎重に使わなければならないため、県が関わって適切に管理することが基本である。しかし、そのお金を 1,000 万円のレベルでも良いので他の組織が自由に使うことができるなど、目的を団体と県が共有することを前提にお金や組織が大きい動きをできるようになると、大胆な人材発掘に繋がっていくのではないと思う。既に住民が関わるという部分はクリアしているため、次はお金の使い方や組織のあり方の大胆な仕掛けづくりのようなものがあると良い。

委員 : 資料 1 の環境学習で、「公立幼稚園・保育所にバス代を支援」と書かれている。しかし、幼稚園を受け入れる際、こちらからバス代を出して来てもらっており、現在助成金を活用して行っているが限界がある。今年も 5 校から 6 校の公立の幼稚園を中央緑地で受け入れた。幼稚園のバス代を支援する制度はどの様なものか。

事務局 : 「公立幼稚園・保育所にバス代を支援」というのは、阪神南県民センターの予算で実施している。尼崎市の小学校は市の事業として環境学習のなかで中央緑地に来て頂いている。西宮市と芦屋市の小学校と公立の幼稚園については、中央緑地の利活用に努めて頂きたいということで阪神南県民センターから支援している。

委員 : 尼崎市の幼稚園も利用できるのか。

事務局 : 阪神間の3市であれば対象になる。

委員 : 幼稚園に伝えるようにする。

会長 : 核心的な意見を頂いたと思う。淡路島の「北淡路花緑ネットワーク」では、国営公園や、淡路島公園、佐野運動公園、花さじき、景観園芸学校を繋ぐ趣旨で、500円で乗り放題のバスを設置することについて議論を始めている。市民レベルでみんなが取り組んでいくことができるような話が大事である。それを拡大して今後は、南あわじのネットワーク、北淡路のネットワークという話に動いていく。ここでも市民のネットワークをどうするか是非議論されると良い。

古民家は垣根がつくのか。適切に設計しておいて頂きたい。

また、県政150周年記念事業は県民が公募する事業であるため、委員も応募されてはいいかかと思う。委員も皆に声をかけて、多くの人に参加できるようにすると良い。4月からまた応募が始まる。

委員 : 阪神南地域からは、3月までに28件の申請があった。来年度分も募集しており、今後どのようにしていくか皆さんにも考えて頂きたいと思うので、ぜひ手を上げて頂きたい。

会長 : 運河サミットは、ぜひ取組んで欲しい。国交省の河川局も考えが変わってきており、水辺の有効利用を促進して欲しいということで加古川などをはじめ、利活用を推進しているため、どんどん進められると良い。また緑化資材等の提供について、インテリアプランターなどを活用してはどうか。壁面緑化などは難しいという事業所も多いと思うが、机に少し花を飾る程度であれば気軽に取り組むことができるため、緑化のきっかけになるようなグリーンプラントなどがあれば良い。発想を豊かにして皆がグリーンを机やトイレに置くなど、緑化を実感するきっかけになるものを考えることができれば良い。自転車の傾向分析はぜひ頑張ってもらいたい。神戸市や横浜市などの電動レンタサイクル先進事例を参考にされると良い。

■議事2. エピソードの集約・分析に向けて

○資料説明（事務局）

資料2 エピソードの集約・分析による評価について をもとに、事務局より説明した。

○意見交換

委員 : とても楽しみにしていたエピソード評価であるため、こういう評価があるということが勉強になった。しかし、資料が見にくいと思う。木が成長するというところにリンクさせていると思うが、どんどん見にくくなっているように感じる。

もう一つは、まだフィードバックできていないという話があったが、これはエピソード評価であるため、各主催団体が自分たちで定性的に評価を行い次の策を出すことが大事である。今後もエピソード評価を続けていくのであれば、各主催団体や実行委員会にこういうやり方でそれぞれ評価をして次の一手を考えて下さいというような、資料提供で

はなく、まとめるのも県や行政主導ではない、それぞれの主催団体で考えていくものではないかと思う。

事務局 : 委員のおっしゃるように、各主催団体と一緒にやっていきたいという思いはあるが、エピソード評価の手法も見本も無い中で行っているため、まずはどのようにすればエピソード評価ができるのかやってみようという状況である。今後は実際にやっていきたいと考えている。

委員 : 見にくいでしょうか。目的別に色が変わっており、目的を再確認することができて良いと思う。「協力・連携団体」や「協賛・協力企業」に、例えば「モリンピック」などの写真を掲載すれば、企業の既存産業はどんなものなのか理解できて良いと思う。このポイントは、準備段階からエピソードを拾い、当日も「いいね！カード」などでエピソードを拾ったというところである。目的別に整理することで、成長の芽生えのようなものもあれば結実もあることから、葉や実で分けている。壮大な振り返りを行っており、とても良い試みであると思う。これを見て団体がやろうと思うのは難しいかもしれないが、エピソードを集めるという努力や、準備段階から注目したということと、それを振り返り分けてみたことが大事である。位置が間違っているなどは全く気にしないで良い。集めることと整理してみることで良い。エピソード評価の方法が無いなかで、これは一つの形として良いと思うため今後も進めて頂きたい。作成したものは関係者に貼り出して見て頂きたいと思う。

事務局 : ご指摘を頂いたように見にくいと感じている。これを全て読んでもらうと難しいため、今後はグラフィックデザインというテクニックでどうにかするという方法もある。しかし、今回の評価を実施しなければ、「モリンピック」は開催概要と協賛団体のリスト、参加者数だけで済まされていたと思う。3期目になると更に大きくなるが、成長する枝もあれば枯れていく枝もあるように、こういったことが経年的に見て取れるようにしたいと考えている。大きな花を咲かせる木もあればあまり成長しない木もあるので、そういった感覚で各プロジェクトやお互いの関わりを感覚的に共有する手法として、新しい試みがまだできるのではないかと思う。このエピソード評価も、一つのプロジェクトのようにして2期目、3期目と改良を加えていきたいと考えている。会長がおっしゃっていた尼崎 21 世紀の森では様々な新しいことに取り組んでいるということ、表現し発信する手法を開発することが、一つのプロジェクトとして考えられると思う。

会長 : 図にタイトルが書かれていないが、何と付けられるのか。

事務局 : タイトルは、「仮題 モリンピック エピソード評価共有シート」であり、評価を共有するためのシートとしている。共有するには分かりにくいということであったため、改良が必要であると考えている。

会長 : このチャートは、最低でも3枚から4枚出てくるのか。

事務局 : この表は評価の根拠である。これは勝手にシナリオを書いているのではなく、アンケートを実施したり「いいね！カード」を収集したりして、参加者やスタッフの言葉を集め

たことが大事であると考えている。

会長 : では、これまでの議題も含め、全体的に何かご意見があればお願いいたします。

委員 : 平成30年度の取り組みのなかで「(4) 企業の森づくり活動や工場緑化の推進」の部分で意見交換会を実施すると書かれているが、昨年の11月末から森づくり構想や緑化の意見交換が行われていたのが新年度から定期的に行うとのことであるが、具体的にどのように進められるのか。また、11月末から実施されたなかでどのような意見が交わされたかご紹介頂きたい。

事務局 : 11月末から計6回、延べ約60社の方々にお会いしお話を伺った。そのなかで、「ひょうごアドプト制度」という県が管理する街路樹や道路等をボランティアで清掃する契約を結ぶ制度があるが、それとは別に工場の周辺を定期的に清掃されているということが分かった。今後そのような取組を顕彰できるように検討している。企業の森づくりを皆さんに見えるようにしていきたいと考えている。これまでは企業が管理を行う場に出向き説明を行っていたが、今後は中央緑地に集まって頂き中央緑地はどのような場所か見て頂きながら、この場でご意見を聞かせて頂くこともできればと考えている。

委員 : PRで認知度を上げるだけでなく、その先の当事者意識を持ってもらうことが大事であると思う。ここに集まって頂くことができれば、自由に活発に意見を交わされると思うので良いと思う。新年度は定期的開催ということであるが、何回程行われるのか。

事務局 : アンケートを実施した結果、年に1回はそのような意見交換会があっても良いという意見が多かったため、年に1回程度は会を設けたいと考えている。

委員 : エピソード評価の表について、この発想は斬新であるが一覧性が大事であると思う。一つの覧に入る文字が多すぎるため、もう少しシンプルに表現できれば見やすさが向上すると思う。具体的な内容は別表で見るなどして対応すれば良い。

会長 : エピソード評価の表は、これはこれで良いが、これ以外に要求されるものや抜けているものを発見できるチャートを作る必要があると思う。最近ではKJ法やワークショップなどが多く使われているが、私たちがKJ法を始めた頃は課題を発見するためにKJ法を使っていた。川喜田二郎先生は、情念でグルーピングするということが発想の原点であった。既成概念に基づいて分類するのではなく、新しいことを見出すために情念に基づいてグルーピングするということである。この資料は、4つの取組で綺麗に分類されているが、この取組に何が足りなかったかを見出すための工夫を、更に付ければ効果が共有できると思う。通常ならばこの資料で良いと思うところであるが、良かったというだけで終わるのではなく、次をどうすれば良いかという空白を見つけるようなことを、もう少し頑張ってもらえればと思う。

事務局 : 正におっしゃる通りで、これは生物に例えているため、どこかで新種が現れたり、色が変わるような突然変異が起こると思う。そのようなことにチャレンジして検討していきたいと思う。

会長 : 大阪大学の鳴海先生の30年程前に書かれた学位論文で「都市のクライマックス」などを参考にされると良い。

委員 : エピソード評価は、時間をかけられてよくやられたなと思う。キーサクセスファクターではないが、何故評価が良かったのかを考えておくとその後どのように展開していけば良いのかヒントが見つかると思う。例えば、「活力ある都市の再生：健康・まちづくり」の評価のところ、「多様な世代が交流する機会を創出した」と書かれている。その前に実は40歳以上の方のオーバー40部門を設けようといった意見があったことなど、何故この評価のように上手くいったのかということも含めて分析できると、次に繋がるのではないかと思う。アンケートを見ると、「森の文化祭」は60代の方も参加しているが、それ以外のイベントには60歳以上の方はあまり参加していない。「森の文化祭」は60歳以上の方が訪れているが、これからその方達が更に増えていくため、数を増やすために例えば全世代型ということが一つのキーになり仕掛けていくことができる。このようにキーサクセスファクターが出てくると、より将来的に繋がるのではないかと思う。

会長 : 一度、学会にかけられるのも良いと思う。どのように講評されるかみてみると良い。今日の意見を聞いていると、市民の方がもっと主体的に参加して盛り上がる姿を見たいと思う。また、先ほどから産業についての話も出ているが、図面は中央緑地しか無い。尼崎21世紀の森は国道43号から南であるので、その図面と中央緑地の図面を出しておく必要があると思う。昨年3月まで私は丹波の森公苑長を行っていたが、丹波地域の方々は「丹波の森構想」の中身は詳細には知らないが名称は知っていた。30年経てば、丹波地域の住民のほぼ全員が「丹波の森構想」の名前は知っているという状況であった。第一にそのような市民をつくるのが大事である。そのためにはまず、工場の方などに尼崎21世紀の森構想に工場が立地していることを何度も伝え意識を持ってもらうようにすることが必要である。すぐにはできないと思うが、10年ぐらいの長期間で尼崎21世紀の森構想を伝えていくことを議論して頂ければと思う。

■議事3. 協議会の来年度の取組について

○資料説明（事務局）

資料3 協議会の来年度の取組をもとに、事務局より説明した。

○意見交換

委員 : 中央緑地東側の栈橋の件で一步を踏み出して頂いたのは非常に有難いと思う。「運河サミット」などで全国の水辺を周っているが、水辺が元気な所は街も元気で活発で経済が動いているように思う。栈橋を利用することが決まったことによって、経済や人の動きが出てくると思うので、ぜひプロジェクトを立ち上げて進めていきたい。大阪で昨年「おおさかふくしま・中之島ゲート海の駅」が出来て、今年は更に発展していくようなので、栈橋からそこまで船で行くことができるラインを作って頂くなども、陸でのアクセスが悪いため考えて頂ければと思う。

もう一つは前回の協議会で、公園を巡ってもらうための「公園カード」を作ってはどうかという意見を述べたが、事務局案を個人的に見たが非常に良いと思っており、今後も引

き続き考えていきたい。「公園カード」に何を書けば良いか考えていた時に、尼崎の森中央緑地という名称にセカンドネームやニックネームを付けると良いと思った。東京タワーが「昭和塔」になりかけていたとか、東京スカイツリーが「大江戸タワー」になりかけていたとか、レインボーブリッジが「お台場大橋」になりかけていたという話を聞いた。尼崎の森中央緑地は海側にあるのに名称に海の雰囲気が出ておらず、尼崎市の住民としてピンと来ない。中央緑地がどのような場所にあり、何をしているかということが名称では分かりにくいため、認知されていないのではないかと思う。公募して良い案を募集するのも良い。

事務局 : 県立公園であるため名称は県として定めている。ネーミングライツということで、企業から資金を得ながら名称を付けることができるという制度があり、そのようなやり方で企業が命名権を取るというケースはある。

委員 : 先日、緑化技術検討会で中央緑地の英語表記について検討されていたが、英語の表記も含めて、来年度に検討にしていくテーマにされてはどうか。皆さんで考えられてはどうか。

委員 : まずは森の会議で提案してみる。

■閉会

以上